

編集顧問

阿部 弘
岩崎 喜信
大本 堯史
河瀬 斌
菊池 晴彦
桐野 高明
高倉 公朋
田中 隆一
西本 詮
橋本 信夫
早川 徹
平川 公義
堀 智勝
吉田 純
吉本 高志

編集委員

佐々木富男
(編集委員長)
新井 一
岡田 芳和
片山 容一
斉藤 延人
高安 正和
伊達 勲
富永 悌二
寶金 清博
宮本 享
吉田 一成
吉峰 俊樹
若林 俊彦
(五十音順)

新年号の「扉」に早川徹先生のお言葉をいただきました。昭和30年頃の久留勝先生の「系統外科学」では「外科は組織損傷を前提とする『侵襲的治療』であり、その意味では『本道』である内科からはずれた『外道』的治療である」とされていること、しかし近年では手術の低侵襲化や種々の低侵襲的治療法が導入され、その概念が変わってきたこと、などが述べられています。手術の「低侵襲化」の提唱は20年近く前、早川先生が第23回日本脳卒中の外科研究会を開催された際、主題を「less invasive surgery for cerebral stroke」として取り上げられたのが本邦で初めてのように思います。この頃は頭蓋底手術など、手術規模を拡大して新たな領域を開拓する努力がなされていました。早川先生も transoral transclival approach による脳底動脈瘤のクリッピングや long vein graft による頭蓋内血行再建術などに取り組んでおられましたが、その一方では手術の低侵襲化の必要性を痛感されていたようです。その後、多くの外科領域で手術の低侵襲化が追求され、また内科では血管内治療や内視鏡の使用が盛んとなり、外科と内科の垣根が低くなってきたものです。しかし、多くの場面では今も手術は最も強力な治療手段です。この手術は外科医だけに可能であり、それゆえ外科医はその責任者として手技の研鑽や改良、開発に全面的な責任を負っているといえます。

このようななかで、昨年の脳神経外科学会学術総会では、テーマを「脳神経外科という医学—医学に育ち、医学を伸ばす—」として、脳神経外科が医学のなかで果たすべき役割や「立ち位置」について考えてみました。これで感じたことは、早川先生の述べられているように、日本の脳神経外科医は手術手技にこだわりその修練と改良に努める一方、患者さんの治療のためには手術以外の方法にも力を注ぐ点です。海外では珍しい取り組みです。本邦での恵まれた医療環境や医師の熱意とパワーや思考の柔軟性が、これを可能としているのかも知れません。多くの国ではこのような余裕はなく、「ひたすら手術に専従する」状態です。日本脳神経外科学会は会員数が9,000名を超えたといえます。ますます発展し、世界の医学に貢献してほしいものです。

本号でも総説や研究、症例報告に脳神経外科医のあくなき努力と研究の賜物が満載です。原稿を賜りました先生方に深謝いたします。

Neurological Surgery 脳神経外科

(第41巻第1号)

2013年1月10日発行(毎月1回10日発行)

定価 2,730円(本体2,600円+税5%)

[2013年 年間購読料(税込、送料弊社負担)]

冊子版/通常 32,760円、冊子版/個人特別割引 30,030円、冊子+
電子版/個人特別割引 35,030円、冊子+電子版/共有 42,700円、
電子版/個人特別割引 30,030円、電子版/共有 37,700円

E-mail: noge@igaku-shoin.co.jp http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/noge/

投稿論文オンライン受付 ID: noge パスワード: noge

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5701

(担当: 松田・山崎)

販売部直通 (03) 3817-5659

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三美印刷株式会社 電話 (03) 3803-3131

広告申込所 ㈱ハイブリッジエージェンシー

電話 (03) 3814-0089

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2013, Printed in Japan.

• 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能性を含む)は(株)医学書院が保有します。
• 本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

• JCOPY (株)出版者著作権管理機構委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(株)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。